【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成24年11月15日(2012.11.15)

【公表番号】特表2010-505035(P2010-505035A)
【公表日】平成22年2月18日(2010.2.18)
【年通号数】公開・登録公報2010-007
【出願番号】特願2009-530589(P2009-530589)
【国際特許分類】
Ｃ１０Ｇ　7/00　(2006.01)
Ｃ１０Ｇ　11/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１０Ｇ　7/00
Ｃ１０Ｇ　11/18

【誤訳訂正書】
【提出日】平成24年9月14日(2012.9.14)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１３】
本発明は、さらに石油化学原料油を製造するための方法を含む。一態様に従えば、このような方法は炭化水素原料を流動接触分解反応器域に導入し、C_5～C_{9+}の炭化水素を含むナフサ原料油を含む反応器域排出液を生成することを含む。C_5～C_{9+}の炭化水素を含む該ナフサ原料油の少なくとも一部は、該反応器域排出液から回収される。C_5～C_{9+}の炭化水素を含む該回収されたナフサ原料油の少なくとも一部は隔壁分離カラムに導入され、該原料油を５個から６個の炭素原子を含有する化合物を含む軽質留分、７個から８個の炭素原子を含有する化合物を含む中間留分、及び８個を超える炭素原子を含有する化合物を含む重質留分に分離する。５個から６個の炭素原子を含有する該軽質留分化合物の少なくとも一部は分解され、C_2及びC_3オレフィンを含む分解されたオレフィン排出液を形成する。芳香族炭化水素は、７個から８個の炭素原子を含有する該中間留分化合物から回収される。８個を超える炭素原子を含有する該重質留分化合物が選択的にガソリン炭化水素含有流に混合される
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３９】
さらに、好適な態様に従えば、隔壁カラムで生成又は形成される生成物は、７２°Ｃから７８°Ｃ（１６２°Ｆから１７２°Ｆ）の範囲で、より具体的には７５°Ｃ（１６７°Ｆ）での９５％カットポイントに真沸点［True Boiling Point（ＴＢＰ）］を有する留出物及び、７２°Ｃから７８°Ｃ（１６２°Ｆから１７２°Ｆ）の範囲、より具体的には７５°Ｃ（１６７°Ｆ）での５％カットポイントにＴＢＰならびに１６７°Ｃから１７３°Ｃ（３３３°Ｆから３４３°Ｆ）の範囲、より具体的には１７０°Ｃ（３３８°Ｆ）での９５％カットポイントにＴＢＰを有する副生物を含むのが好ましい。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００４３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４３】
ライン２８６中の８個を超える炭素原子を含有する化合物を含む重質留分流は、混合域２８７に流入し、そこで８個を超える炭素原子を含む重質留分化合物が選択的にライン２９３として示されるガソリン炭化水素含有流に混合される。